

地域連携通信

vol. 7

2026
9月発行

Jichi Medical University
Saitama Medical Center



地域医療連携部

副部長 鷺野 聡

当センターの地域医療連携部（患者サポートセンター）について

平素より、地域の先生方ならびに医療・介護・福祉関係者の皆様には、当センターの地域医療連携に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

地域医療連携部は、地域の医療機関からご紹介いただく患者さんに対し、適切かつ円滑に専門的医療を提供するとともに、治療後も地域で安心して療養を継続していただけるよう支援する役割を担っています。紹介・逆紹介、診療予約、退院・転院支援、医療福祉相談などを通じ、多職種・関係部署と連携しながら、入院前から退院後まで切れ目のない支援に努めています。

また、手術を予定される患者さんに対する患者フロー管理にも力を入れています。外来で手術方針が決定してから、術前検査、入院準備、手術、退院支援に至るまでの過程を、医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、事務部門等が連携して支援しています。患者さんが安心して治療に臨み、適切な時期に必要な医療を受けられる体制を整えることを目指しています。

今後も、地域の先生方からのご紹介に迅速かつ丁寧に対応し、患者さん一人ひとりにとって安全で円滑な診療・療養につながるよう努めてまいります。地域の皆様に信頼される連携の窓口となれるよう取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

内分泌代謝科

内分泌代謝科 科長 原 一雄



内分泌代謝科は、糖尿病、肥満症、脂質異常症をはじめとする代謝疾患と、甲状腺、副腎、下垂体、副甲状腺などの内分泌疾患の診断・治療を幅広く行っています。2025年の外来患者数は延べ17,231人、紹介初診患者数は412人で、さいたま市を中心に近隣地域から多くの患者さんをご紹介いただいています。先生方と役割を分担し専門的な評価や治療方針の決定が必要な時期を当科が担い、病状が安定した後は紹介元の先生へ逆紹介することを基本に、切れ目のない診療を目指

しています。内分泌代謝疾患は、適切な診断と治療によって、合併症予防や生活の質の維持・向上につながる領域です。

糖尿病診療—専門的な評価・治療調整から合併症予防まで

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、膵疾患や薬剤に伴う糖尿病などを対象に、病態や併存疾患など患者背景を踏まえた治療を行っています。持続血糖測定（CGM）などのデバイスによるきめ細かな治療内容の調整を行っており、2025年には延べ576人にCGMを用いた診療を行いました。また、糖尿病合併症の予防にも力を入れています。栄養部と連携して2021～2024年には各年約100人を対象に糖尿病透析予防指導を実施しました。血糖マネジメントが十分に改善しない症例、重症低血糖や血糖変動の大きい症例、治療選択に難渋する症例、糖尿病合併症の精査、手術前後や感染症併発時の血糖マネジメントなどについて、どうぞご相談ください。

肥満症診療—新たな治療選択肢を生かした集学的治療

肥満症は、体重だけの問題ではなく、糖尿病、高血圧、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群、脂肪性肝疾患、運動器疾患など多くの健康障害と関連する慢性疾患です。内分泌疾患による二次性肥満を評価した上で、医師、管理栄養士などの多職種が連携して食事療法・運動療法を行います。これらを一定期間継続しても十分な効果が得られず、承認された適応や安全性を踏まえて薬物療法が適切と判断される場合には、抗肥満薬の導入を検討します。

内分泌疾患—専門的評価により病態を明らかに

甲状腺機能異常・甲状腺腫瘍、副腎腫瘍、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫、下垂体疾患、副甲状腺・カルシウム代謝異常、骨粗鬆症、性腺機能異常などを診療しています。健診や画像検査で偶然見つかった副腎腫瘍、若年または治療抵抗性の高血圧、低カリウム血症・低ナトリウム血症・高カルシウム血症、体重変化、動悸、発汗、倦怠感なども重要な手がかりです。内分泌負荷試験や画像検査を含む専門的評価を行い、手術が必要な場合は外科系診療科と速やかに連携します。

このような患者さんをご紹介ください

- ・血糖マネジメントが改善せず、治療方針の再検討が必要な方
- ・重症低血糖を繰り返す方、または血糖変動が大きい方
- ・CGMやインスリンポンプの導入・調整を検討する方
- ・糖尿病合併症の精査や、手術・感染症併発時の血糖マネジメントが必要な方
- ・肥満に関連する健康障害があり、生活習慣改善の指導で減量効果が得られない方
- ・甲状腺機能異常、副腎偶発腫、下垂体疾患などが疑われる方
- ・若年性・治療抵抗性高血圧、低カリウム血症などから二次性高血圧が疑われる方

産婦人科

産婦人科 科長 桑田 知之

産科

産科部門では、ハイリスク分娩を中心に年間約480件の分娩を取り扱っています。無痛分娩、セミオープンシステムに対応するとともに、胎児診断の県内の拠点病院の1つとして、近隣施設での胎児異常疑い症例の診断依頼にも対応しています。妊娠と薬相談の拠点病院として、薬剤部とともに相談に対応しています。また、地域周産期母子医療センターに指定され、県央・利根地域の母体搬送を担当しつつ、さいたま市内の近隣分娩施設からの母体搬送も数多くお引き受けしております。特に大学病院の特色を生かし、院内各科と連携しながら様々な合併症妊娠の管理に対応しています。子宮圧迫縫合や子宮動脈塞栓術など、産科出血への対応手技も多数実施し、妊娠、分娩、産褥のいずれの時期も安心して治療を受けられる体制を整えています。

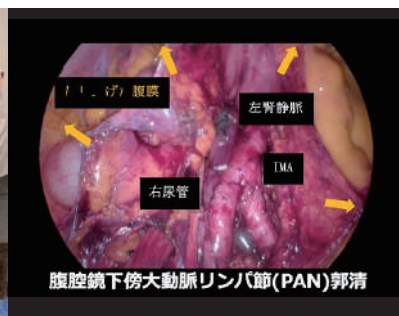
豊富なハイリスク症例を基盤に周産期専門医、超音波専門医も多数輩出しており、安心安全な分娩を患者様に提供できるよう尽力しています。ハイリスク妊婦、合併症妊婦、診断に迷う症例等、ぜひご相談、ご紹介ください。

婦人科

婦人科部門では、良性疾患から婦人科悪性腫瘍、骨盤臓器脱まで、年間約450件の手術を行っています。腹腔鏡手術、ロボット支援手術、開腹手術を症例に応じて選択し、傍大動脈リンパ節郭清を含む高難度手術にも対応しています。

子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術では、全国臨床試験の登録症例数が全国3位、埼玉県内1位の実績を有しています。また、卵巣癌に対する腹腔鏡手術を先進医療Aとして実施し、帝王切開癒痕症候群など比較的多様な病態に対する手術にも取り組んでいます。

埼玉県内で都内大学病院レベルの婦人科手術をほぼすべて完結でき、患者様が都内まで通院せずに高度な治療を受けられる体制を整えています。豊富な症例を基盤に最も難関である資格の腹腔鏡技術認定医も多数輩出しており、安全な手術と技術の継承を重視しています。高難度症例や手術適応に迷う症例も、ぜひご紹介ください。



「肝炎ウイルス患者の紹介」について



肝炎ウイルス陽性がわかったら

「紹介」が、肝がん予防につながります。

地域の先生方へ

健診や日常診療で見つかった肝炎ウイルス陽性患者さんを、ぜひ当センターへご紹介ください。
肝炎ウイルスによる肝炎は、放置すると肝硬変や肝がんへ進展する可能性があります。



だからこそ——

早く見つけて、早く治療する。それが肝がん予防への第一歩です。

★ ご紹介いただく3つのメリット

①肝がんの発症予防につなげる

肝炎ウイルスに対する適切な治療により、将来の肝がんリスクを低減することが期待できます。

「陽性だけど症状がないから…」とそのままにせず、早期に専門医へつなぐことが大切です。肝機能が正常でも病気が進行している場合があります。



②専門医による精査・治療

当センターでは、肝炎ウイルス陽性患者さんに対して、専門医が精査・治療を行います。
線維化マーカーや超音波シエアウェーブ検査などで線維化の評価が可能です。

患者さん一人ひとりの状態を確認し、必要な治療につなげます。
問題ない状況であれば地域連携にて先生方の元にお戻し致します。

③治療完結までしっかり対応

ご紹介いただいた患者さんは、治療完結まで当院で対応します。

C型肝炎は内服治療のみで副作用少なくほぼ100%治療できます。

HCVは日本において撲滅を目指しており、80歳代の患者さんや透析患者さんも治療可能です。

B型肝炎も内服薬（一部の方はインターフェロンなど注射薬）で病勢コントロールできるようになりました。

最新ガイドラインでは積極的な抗ウイルス治療が推奨されており、医療費の助成制度があります。

「陽性」を見つけたら、そのままにしない。

「見つける」から「治す」へ。

地域の先生方からのご紹介が

患者さんの未来の肝がん予防・肝硬変予防につながります。

肝炎ウイルス陽性患者さんのご紹介をお待ちしております。

【紹介先】消化器内科 【担当】浅野 岳晴 吉川 修平 消化器内科一同

医療機関向けWeb予約システム 「やくばと」を導入しました。

24時間
365日
申込可能

※2026年6月22日から

当センターへの患者紹介をWebで行え、ご紹介の患者さんの初診予約日等の予約状況をご確認頂くことができます。また診療情報提供書をオンラインで事前に送付頂けます。従来のFAXによる紹介と併せてご活用ください。

■ オンライン（Web）でのご紹介の流れ



※紹介元医療機関が入力する情報は**紹介先の診療科・患者氏名・電話番号・傷病名（日本語）**などです。

※当日の緊急受診や緊急入院が必要と思われる患者さんをご紹介いただく場合は、医療機関から地域医療連携室（048-648-5167）に直接電話連絡をお願いします。

※予約日時の調整は、患者さんと当センターが直接行います。

■ 「やくばと病診連携」のご利用には、初回のみお申し込み（無料）が必要になります。
リンク先ページより先は「やくばと病診連携」サービスを提供するメドピア株式会社が管理しています。

医療関係者の方へ

患者さま紹介で
使えるWebツール

やくばと病診連携

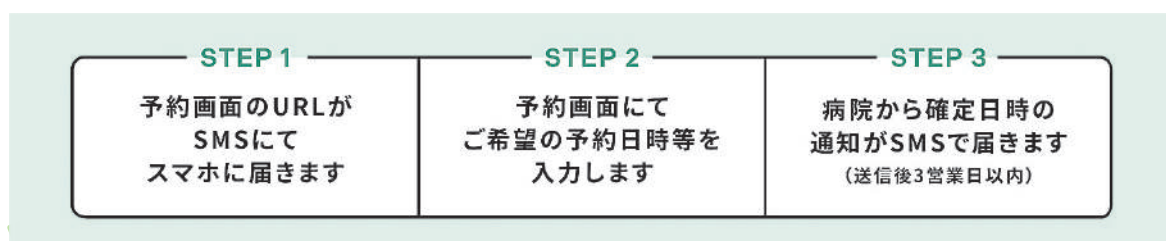
24時間
365日
申込可能

※ メンテナンス等でサービスが停止する場合があります。

お申込（無料）はこちら



■ 「やくばと」でご紹介された患者さんへは、**ご登録のスマホに予約用のURLが届きます**ので、ご案内に沿って、**患者さんの基本情報、ご希望の予約日等**をご入力いただきます。



お知らせ

患者さん向け、AI電話番号が10月1日から変更となります。

当センターでは電話混雑緩和のためAI電話を導入しております。

AI電話では、患者さんからの下記のご連絡に対応します。

診療予約・予約変更・キャンセル・予約内容確認

※受付後、担当者から折り返しご連絡します。

受付時間

月～金 9:00～16:00
土日祝・年末年始を除く

注意点

- ・当センターより休診日を除く2日以内に電話・SMSでご連絡いたします。
- ・当日の予約や診療内容に関しては、代表番号までお問い合わせください。

※AI電話は患者さん向けの番号となります。

緊急受診や転院相談等は従来どおり以下の番号をお願いします。

平日 8時30分から17時15分 : 地域医療連携室 048-648-5167
夜間 17時15分から8時30分及び休日: 代表番号 048-647-2111

！ 重要なお知らせ

AI電話予約番号が変更になります

この度AIの精度向上を目的にAI電話の
電話番号が変更となる運びとなりました。
患者様にはご迷惑をおかけしますが
何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



変更前の番号



050-1725-4896

変更後の番号



050-5865-7558

2026年
10月1日(木) から



自治医科大学附属さいたま医療センター

〒330-8503 さいたま市大宮区天沼町1-847 TEL.048-647-2111(代) FAX.048-648-5166 <https://www.jichi.ac.jp/center>